

- 下社境内
- 中宮神社 祭神 玉依姫命
- 日枝神社 祭神 大山咋神
- 相殿 宗像神 稻荷神 愛宕神 金刀比羅神 夢彦神 夢姫神
- 玉守神社 祭神 玉守神

境外社

白石神社 小浜市下根来白石鎮座

祭神は若狭彦神、若狭姫神を白石大神、または鶴の瀬大神とたたえて奉祀。若狭彦神社創祀の社、と伝えるが年代不詳。

境内に椿が群生し、目通二・一四米。樹高一二・三〇米の大木は、市の天然記念物に指定。この社の北方一五〇米、遠敷川をはさんで、若狭彦神社の飛地境内がある。鶴の瀬という霊域にして、清流が巨巖に突当るところの深淵を、奈良二月堂の若狭井の水源と伝えておる。

この巨巖は、若狭彦神、若狭姫神の降臨しましたところ。またこの鶴の瀬は、若狭彦神の斎場でもある。社を送水神事(豊作を祈願する神事)の瀬にしみて奈良までとどく蟬の声

山口誓子

小浴神社 小浜市金屋鎮座

祭神 若狭彦神、若狭姫神
また小南神社ともたたえる。

建造物

上社 本殿、神門、楼門
福井県有形文化財に指定
江戸時代の改築。

下社 本殿、神門、楼門及び社叢
福井県有形文化財に指定
江戸時代の改築。

社叢は、社殿裏山に広がり、若狭地方を代表する暖地性広葉樹林であり、建物とみごとに調和、太古からの荘厳な様相をよくとどめている。

社宝

太刀 一振 宗近作

国の重要文化財に指定
小浜藩主酒井忠為の寄進。
東京国立博物館に出陳中。

隨身(吉祥八人)

上社及び下社の楼門に八柱づつ安置してある。鎌倉時代の作。全国唯一独特の様式で、極めて貴重な存在である。若狭彦神、若狭姫神がこの地にご鎮座になつたとき、お供をした眷族(郎党)の方々である。

詔戸次第 一卷

国の重要文化財に指定
乾元二年(一、三〇三年)の奥書がある。

鎌倉時代に使用されていた全国的にも貴重な祝詞集。

神木

千年杉

下社瑞垣内にある。目通六米。樹高四〇米。遠敷の千年杉として名高い。秀麗この上なく、古来、不老長寿の象徴として篤く信仰される。乳の木

下社境内にある。銀杏の木。目通四米。樹高四〇米。枝の下から瘤が垂れさがつて、あたかも乳の如き形をしておる。母乳すくなきもの、この木に祈れば、豊かに授かるとい、乳木様としての信仰が篤い。

夫婦杉

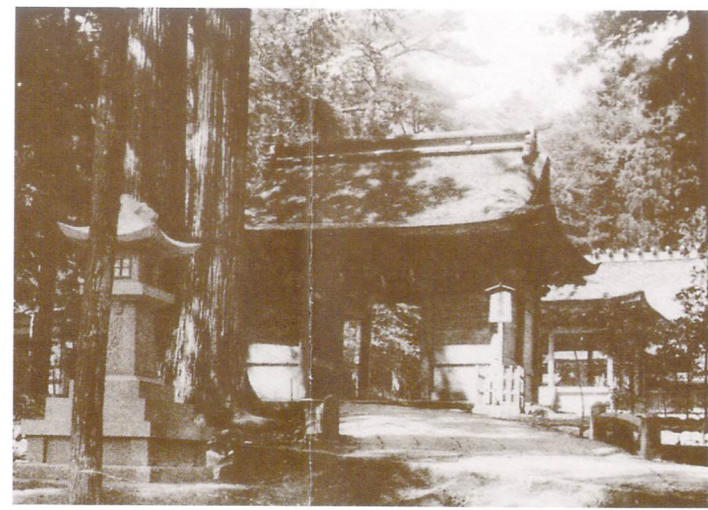
上社境内楼門前にある。二本が根本においてびったり密着しておる。

夫の木 目通三・五米。樹高四〇米。
婦の木 目通三米。樹高三〇米。

招霊の木

下社境内能舞殿前にある。目通二・五米。樹高一八米。明治の中頃に京都御所より拝受、植栽されたといわれる。
小浜市指定 天然記念物。

若狭彦神社上社本殿及楼門・神木夫婦杉



若狭彦大明神の御神託

みな人の直き心ぞそのま、に
神の神にて神の神なり

この御歌は、宇多帝の御子敦実親王に、夢中に告げ給ひしとなり。四神の御歌と云ふ、是なり。

後鳥羽院勅撰「和論語」

延喜式所載(平安時代)

若狭比古神社 二座(名神大(社))

若狭國一宮若狭彦神社由緒記



鶴の瀬の清流

若狭彦神社由緒記

所在地

- 上社 小浜市龍前
 JR小浜線東小浜駅下車（南二、一〇〇米）
 JRバス若江線遠敷下車（南一、六五〇米）
 下社 小浜市遠敷
 JR小浜線東小浜駅下車（南六〇〇米）
 JRバス若江線遠敷下車（南一五〇米）

- ・北陸自動車道敦賀JCT經由
- ・中国自動車道吉川JCT經由

舞鶴若狭自動車道小浜ICより
 （近畿自動車道敦賀IC）

国道二十七号線（東へ）經由約三軒

敦賀JCT小浜IC間 三九軒

吉川JCT小浜IC間 一二三軒
 （兵庫県）

名称

- 上社 若狭国一宮若狭彦神社上社
 下社 若狭国一宮若狭彦神社下社

下社を古来、若狭姫神社、遠敷神社（遠敷明神）とも称したが、明治四年、国幣中社に列せられて、官祭を仰せ出された後は、若狭姫神社、または若狭彦神社下社と

公称されるようになった。また上社及び下社を併せて、若狭彦神社とも、上下宮ともたえまつる。

姫宮を出て彦宮へ秋日和 村田眉丈
 下社境内に句碑がある。

祭神

上社 彦火火出見尊を若狭彦神とたたえて奉祀する。

下社 豊玉姫命を若狭姫神とたたえて奉祀する。海幸、山幸の神話で名高い神々である。

創建

（奈良時代、八世紀初頭）

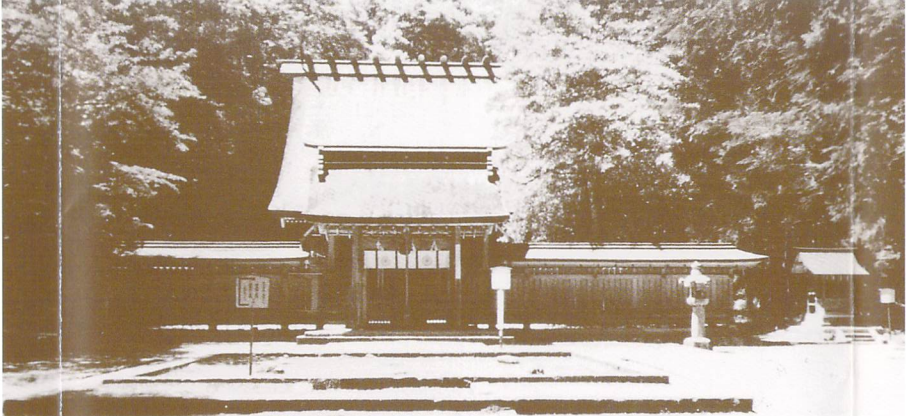
上社 霊亀元年九月十日鎮座

下社 養老五年二月十日鎮座

令和元年より一、二九八年前。

小浜市下根来白石（小浜線東小浜駅より南五、一〇〇米）に鶴の瀬というところがある。遠敷川の清流が巨巖に突当って淵をなしている。この巨巖の上に、先づ若狭彦神、次いで若狭姫神が降臨されたと伝える。この南方一五〇米のところに、創祀の社と伝える白石神社がある。

その後、永久鎮座の地をもとめて、若狭国内を巡歴なされた末、霊亀元年九月十日に、龍前に若狭彦神社、六年の後、即ち、養老五年二月十日に、遠敷に若狭姫神社が鎮座。上下分れての鎮座は、深き幽契の存するところと恐察しまつる。



若狭彦神社上社本殿及神門・瑞垣

祭日

- 上社 十月十日
 下社 三月十日

明治初年までは、上社が九月十日、下社が二月十日の鎮座の日が例祭であったが、太陰曆が太陽曆に改ったとき、一カ月さげて、十月と三月の十日に変更された。

特殊信仰

御神徳は広大無辺にして、古来、上皇室の御崇敬をはじめ、庶民一般の信仰が篤いが、就中農業、漁業、安産育児、また、量、敷物商工業の守護神としての信仰が深い。

奈良二月堂のお水取りは名高い行事であるが、このお水取りは、東大寺の実忠和尚と遠敷明神との神約にもとづくものであって、この遠敷明神は、遠敷神社、即ち、若狭姫神社の祭神若狭姫神―豊玉姫命である。

東大寺には、二月堂の右裏手に遠敷神社が奉祀してある。

境内社

- 上社境内
 若宮神社
 祭神 鷓鴣草葺不合尊
 相殿 大山祇神 蟻通神



若狭彦神社下社本殿及神門・瑞垣・千年杉

若狭彦神社社務所

福井県小浜市遠敷
 電話(0775)561-1116番